

千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第11週 (3/12-3/18) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		11週	10週	9週	8週
上段:患者数	小児科	18	18	18	18
下段:定点当たりの患者数	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 3/5-3/11 10週
		注意報	3/12-3/18	3/5-3/11	2/26-3/4	2/19-2/25	
			11週	10週	9週	8週	
小児科	RSウイルス感染症		2	1	2	4	22
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	51	43	35	51	421
	感染性胃腸炎		87	60	79	55	511
	水痘		1	0	2	2	48
	手足口病		1	0	0	0	2
	伝染性紅斑		0	2	1	0	15
	突発性発しん		6	9	5	5	43
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	1
	流行性耳下腺炎		2	1	2	3	7
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		159	232	335	459	2,091
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	0	12
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	1	0	1	3

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	病原体等の検出	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	50歳代	IGRA検査
結核	男性	50歳代	病原体等の検出等	結核	女性	90歳代	胸水ADA値の上昇
結核	男性	60歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

・第11週は、結核9件(47)、急性脳炎1件(2)、百日咳2件(12)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

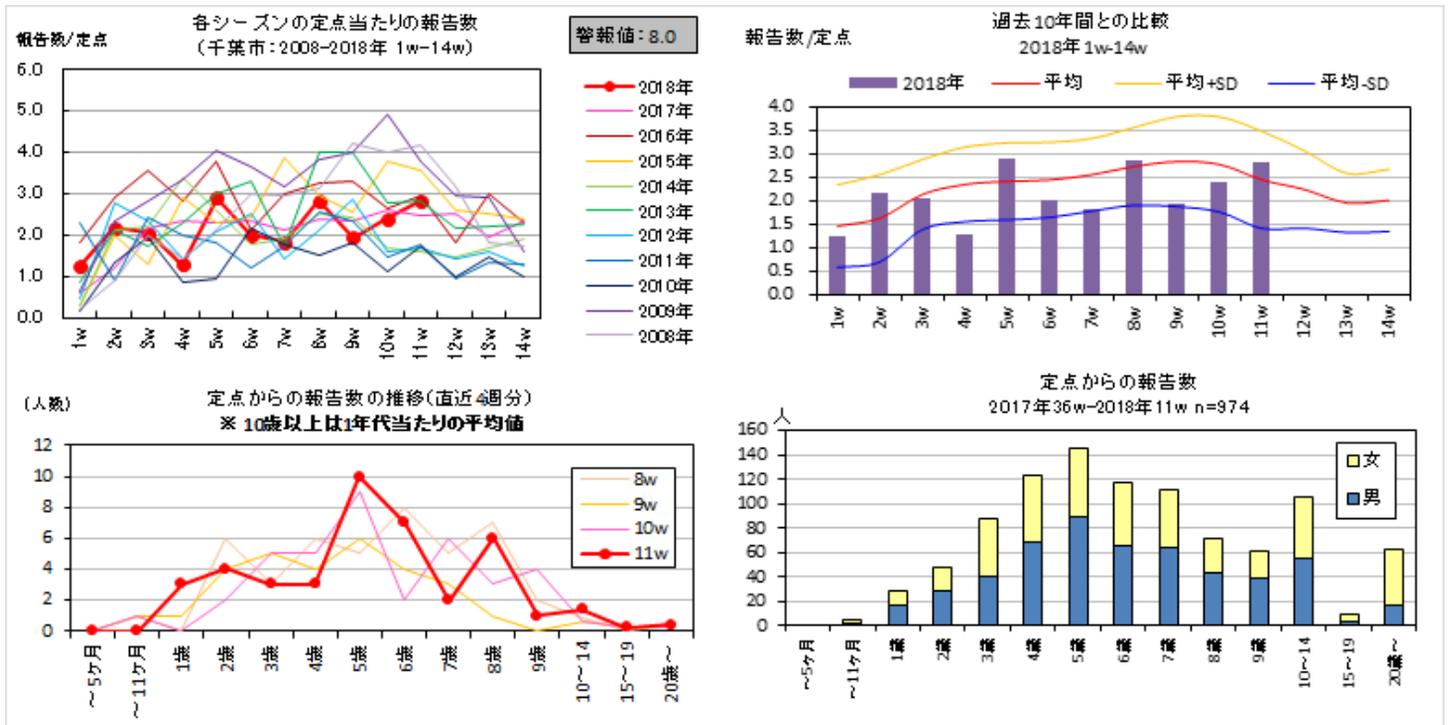
定点当たり報告数 第11週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より更に増加し2.83となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では石川県、鳥取県、北海道の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2018年第11週は前週より更に増加し2.83となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、緑区(7.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。緑区では過去10年の同時期と比べると最多となっています。今シーズンである2017年第36週から2018年第11週までの累積報告数(n=974)によると、性別では男性が54.6%(532名)、女性が45.4%(442名)で、年齢階級別では5歳(14.9%:145名)、4歳(12.6%:123名)、6歳(12.0%:117名)の順に多くなっています。



<劇症型溶血性レンサ球菌感染症>

全国レベルの第10週の発生届累積数は179件となり、過去10年の同時期と比べるとおよそ1.6~10倍で最多となっています。都道府県別では東京都(23件)、静岡県(13件)、千葉県及び神奈川県(共に12件)の順で多く報告されています。千葉市では、第11週現在2件の発生届があり、過去10年と比べると少なめの状況となっています。2011年から2016年までは上下しながら増加傾向にあり、2016年に過去10年で最多となりましたが、昨年は減少しました。

